

民間商業ビルの土地を取得・除却し、高札場を復元した広場を新設 (山口県萩市)

唐樋(からひ)札場跡は、日本海に面した城下町・萩から、瀬戸内海に面する防府の三田尻までをほぼ直線で結び、領内の経済活動を支える重要な街道・萩往還の起点であった。高札場には幕府や藩からの法令や規則などにあたる御触(おふれ)が書かれた高札(こうさつ)が掲げられた。

明治以降は民有地となり、その後は長年にわたり老朽化した商業施設が建ち並び、景観的に問題視される場所となっていた。そこで、萩市は、歴史まちづくり計画の認定に伴う事業を活用し、土地購入と既存建物の除却を行うとともに、発掘調査を行ったうえ、往時の姿の復元を基本に広場として整備を行った。



高札場が復元された唐樋札場跡



唐樋札場跡に建ち並んでいた老朽化した商業施設



発掘調査の様子



唐樋に伝わる奉納行列(唐樋御神幣(ごしんべい))の様子(唐樋札場跡の復元は、祭礼等との一体感向上にも寄与している)

【事業に関する情報】

・発掘調査、既存建物の除却、土地購入、札場復元、公園整備を実施。

【事業関連データ】(計画認定:平成 21 年)

事業名 唐樋札場跡整備事業
 事業実施重点区域名 萩市歴史的風致保存区域
 事業主体 萩市
 事業期間 平成 20 年度～平成21 年度
 活用した補助金
 国土交通省
 ・歴史的環境形成総合支援事業

事業の実施に伴う土地・建物の取得
 ・土地:取得(購入) (約 400 ㎡)
 文化財等の指定状況
 ・萩往還:国史跡

【有識者からのコメント】

江戸時代、有力大名は領内で街道の整備を進め、宿場町、湊町が形成された。長州藩では萩城下町と三田尻の湊町を結ぶ萩往還が領内の重要な街道となっていた。萩往還の起点の高札場は、萩の商業地に位置しており、明治以降は民有地となり、戦後は鉄筋コンクリートの雑居ビル群へと姿を変え、歴史的景観は失われていた。萩市では歴史まちづくり法国庫補助を活用し、高札場跡地の土地を取得、雑居ビル群を解体し、高札場のある広場として復元的に整備した。この結果、萩往還の歴史性を示す公共空間が誕生したことで、城下町の歴史的インフラを可視化することが可能となり、意義ある取組として評価できる。(越澤)